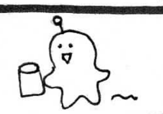
# 週刊 酒ふれ〜く

創刊号

2009.5.24



## 創刊してみました

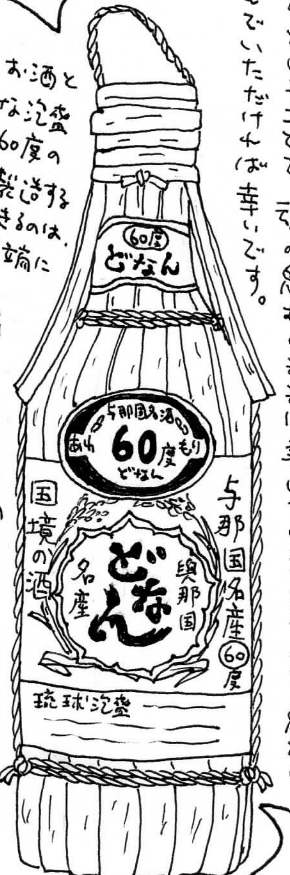
なんとなく、手書きの新聞を作りたいなー という衝動に突き動かされ、思わずこんな駄新聞を作ってしまいました。「週刊」を目標にしてみたところで、ネタが尽きない題材って何だろう？と考えたところ、やっぱり結局「酒」に落ちついてしまいました。とゆーことで、「飲む」「酔う」「買う」「見る」etc… 酒に関することなら何でも載ってる世界一の情報誌を目指して(?!)適当に書いていこーと思います。何だかホームページの「酒ふれーく」と変わらないじゃん、というかWebから手書きへ、と退化してるかんじもしますけど。まあ、三つ子の魂百までということで、魂の思むくままに書いていきますので、思むくままに読んでいただければ幸いです。

## 今週の1本♥

### どなん60度 クバ巻き

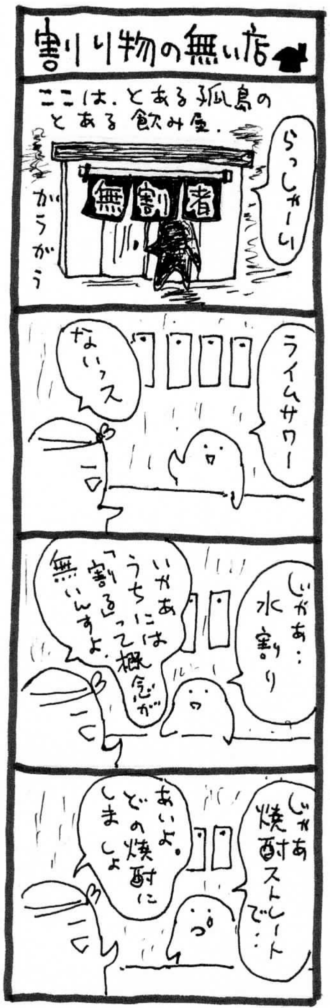
沖縄のお酒として有名な泡盛ですが、60度の泡盛を製造することができるのは、日本最西端に位置する与那国島だけ。

「花酒」と呼ばれるこの60度の泡盛は、どなんの他に、「舞富名」「与那国」の銘柄がある。



60度
どなん
与那国名酒
60度
どなん
国境の酒
與那国
名産
どなん
与那国名産 60度
琉球泡盛

## 割り物の無い店



ここは、とある孤島のとある飲み屋。
無 割 者
らっしゃーい
がらがら
ライムサワー
ないっス
じゃあ…水割り
いやあうちには「割る」って概念が無いんすよ。
じゃあ焼酎ストレートで…
あいよ。どの焼酎にしましょ

つづく！

## 身も心も揺らす衝撃

新橋の沖縄居酒屋で、初めてこの60度の泡盛「どなん」を飲んだ時は、一同誰も記憶が無くなった。「どなん」との出会いは、そんな衝撃から始まった。

それ以来、私はこの「どなん」を、サイズや度数を変えながら、何度も友人達に贈りつけている。私の中で心身共に「人に衝撃を与えたい」時の贈り物として認識しているのかもしれない。特にこのクバ巻きは、「ハレ感」があるので、贈り物としての衝撃度を上げるには、最適ではないかと思う。

## 想ひでの飲み屋

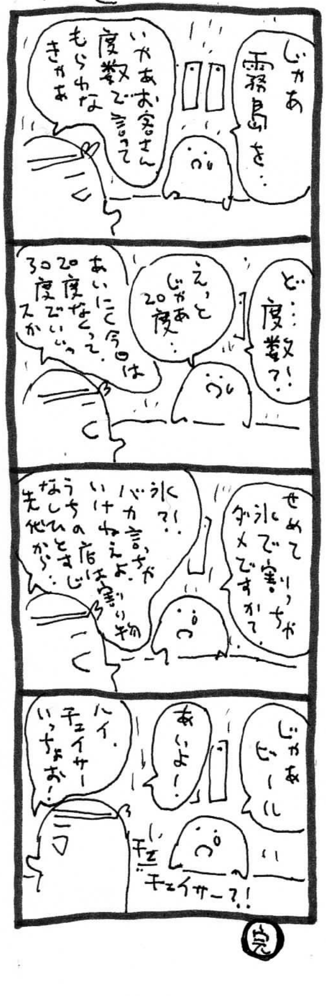
コラム

### 「どんぴしゃ」

茨城県牛久市

今はなき幻の居酒屋。私の記念すべき初飲み会の場所。高校の部活の打ち上げで行って以来、何度も通い、数々の青春模様がくりひろげられた(?)淡い想いでの場所だ。店頭にイノシシのはく製が吊り下がっていたのが印象的であった。しかし今思うと、よく普通に高校生が飲み行ってたもんだが。お店では「大学生」ですって言ってたけど。どうか。

つづき

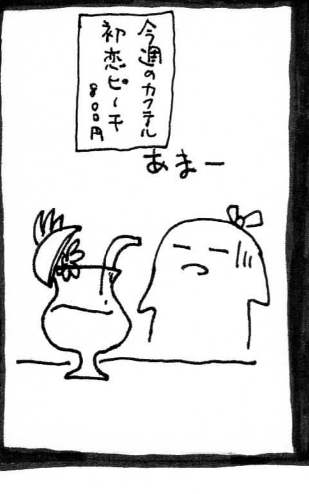


じゃあ霧島を…
いやあお客さん度数で言ってもらわなきゃあ
ど…度数?!
え、と じゃあ20度…
あいにく今日は20度なくって30度でいいっスか
せめて氷で割っちゃダメですかって。
氷?! バカ言っちゃいけねえよ。うちの店は割り物なしひとすじ先代から…
じゃあビール
あいよ！
ハイ。チェイサーいっちょお！
チェイサー?!

㊎完

## 酒かるた vol.1

### ㋐ 甘い酒は酒にあらずしてデザートとして呑め



今週のカクテル
初恋ピーチ
800円
あまー

【解説】甘いお酒って、あんまり「アルコールを飲んでる感」を実感できないので、なんとなく損してる気分になる。これって酒税払ってまで飲む必要あんのかなー。ゼイタクなデザートとして自分を納得させてみたりする乙女心である。

## 編集後記

ほんとうに毎週なんて発行できるのだろーか、と思いつつ。でもてきとうにつくっていきます。得意分野のモノゴトを書くのは楽しいなと実感。（作者）